

「チーム論述書」

チーム番号（ 1 ）

研究テーマ名 人の幸せ 地域の幸福

人の幸せ 地域の幸福

1. 社会課題とチーム1の問い

少子高齢化は、日本において長らくの間、社会問題として顕著に取り上げられ、人口減少や労働力不足、社会保障制度の維持に大きな影響を及ぼしている。高知県においても、大幅な人口減少が予測されており、この問題に対して、人口増加を促進し、少子高齢化を緩和する方策が求められている。しかし、衰退を免れない地域も存在することが予測される中で、単に地域を閉じることは、あまりにも悲観的である。もし地域が衰退し閉じることを選択する場合、何があれば住民が「幸せだ」と感じ、その閉鎖を受け入れることができるのか。この問いを基に、私たちは方策を考察した。

2. 活動を通して

2.1 高知県の課題意識

現地調査を通じて明らかになったのは、地域の魅力発信が十分でないこと、魅力的な仕事が不足していること、過疎化に対する不安が広がっていることなどで、ネガティブな側面が多く見受けられた。一方で、生活の不便さを感じない、また、伝統や地域に対する思いを大切にしている住民が多いといったポジティブな側面も存在した。地域の衰退や消滅、担い手不足に対して危機感を持ちながらも、地域に対する誇りや愛着を感じている住民が多いことが分かった。

2.2 現状の政策と課題

高知県の政策は、「若者を増やす」「くらしを支える」「活力を生む」「仕事を生み出す」といった方針を掲げている。しかし、自治体ごとに政策方針が異なるため、その実効性に差が見られる。また、スマートシリングなどの施策も考慮されているが、これらはあくまで公共サービスの範囲にとどまっている。

すべての地域で人口が増加するわけではないため、最終的に閉鎖を選ばざるを得ない地域も出てくると予測される。地域が閉じるという現実に向き合い、どのような形で閉じていくかを考える必要がある。

2.3 私たちが理想とする社会

私たちが描く理想の社会像は、以下の三つの要素が融合した社会である。「ファンがたくさんいる“く”街」「挑戦する人、巻き込まれる人、応援する人が笑える街」「閉じていく地域があるなら、その地域が幸せに閉じていける社会」。最初の二つは行政や地域おこし協力隊などの施策で取り組まれているが、三つ目の「閉じていく地域があるなら、その地域が幸せに閉じていける社会」に関する取り組みは不足している。この点において、私たちは具体的な方策を提案する。

2.4 提案

「閉じていく地域があるなら、その地域が幸せに閉じていける社会」を実現するためには、地域に「生きた形跡」を残すことが必要だと考えた。物理的な遺物として地域の記録を残すことにより、後世にその地域を回顧する手段を提供でき、地域に対する魅力の再認識と発信にも繋がると考えた。これを実現するために、私たちは「みちかけ」というサービスを提案する。このサービスは、地域に住んでいる人々や訪れた人々が、写真や思い出などを形式にとらわれず自由に投稿し、電子データとして保存できるプラットフォームである。利用者はその記録をいつでも振り返ることができ、また他の人々の記録も閲覧可能である。このサービスは、回想を促すだけでなく、地域への誇りや愛着を深めるきっかけとなり得る。

3. まとめ・展望

私たちが理想とする社会を実現するためには、まず地元の魅力を再確認し、それを外部に発信しつつ、地域の記録を保存していくことが重要であると結論した。さらに、住民に回想のきっかけを提供することが、その地域に対する誇りを育むことに繋がる。また、地域の活性化を図る施策も必要ではあるが、同時に「地域が閉じる」という現実にも正面から向き合っていく必要がある。「人口減少」を単なるネガティブな要素として捉えるのではなく、社会の移り変わりを幸せな形で迎えるための具体的な取り組みを進めていきたいと考える。

以上